

# テレビ番組表からみた現代社会の諸相（その8）

—— 現代社会の総合理解のために ——

伊佐治 大陸

## Aspects of Modern Society Viewed from the Angle of TV Programs (8) Towards An All-Round Understanding of Modern Society

Tairiku ISAJI

### はじめに

「たまにはTVを消したまえ、本を読もう」——こんな宣伝文句が或る出版社の広告として出たように、TVは今日では人々の日常生活の中に相当に入り込んでいる。人々の活字離れにTVが一役買っているというわけである。確かに、言葉を深く推理したり、思考力を強めるにはTVは不十分である。しかし活字にはない使命というものがTVにはいくつかあるだろう。マスメディアとしてのTVが持つ一つの使命は、映像情報を通じて常に「新しい驚き」を人々の日常の中にもたらすことであると筆者は考えている。良きにつけ悪きにつけ、現代社会の様々な変化の予兆をいち早く知らせしてくれるメディアがTVではないだろうか。

芭蕉の俳諧用語「不易流行」から類推できるように、我々は「生命の基本的永遠性とその時々」に流転する新風、つまり「永久に不変のものと常に新しくなっていくもの」とを同時並行的に把握し続けなければならないが、どちらかといえばTVは時代の息づかいとしての流行や変化を我々に映像提示してくれるのではないだろうか。現代社会に対する総合的判断力の基礎と人間の生き方について考える力を養うことを狙いとして、今回もまた1年間のTV番組表を追跡してきた。TVで何が放映されるかを端的にキャッチするためには、毎日の新聞に掲載されるTV番組表を見渡せば見当がつくわけであり、従来同様にNHK総合TV、NHK教育TV、名古屋TV、東海TV、中京TV、TV愛知、岐阜TV、三重TVの合計9局のTV番組表を対象として、そこから現代社会の総合理解のためのキーワードを捜し出す作業を続けてきた。

この1年間（'84年7月～'85年6月）で9局のTV番組表からピックアップしたワードは、'84年後半から141、'85年前半から109で、合計250個である。月平均で21個のワードを取り出した計算になる。250個の中には現代社会を象徴するシンボルとしてのワードもいくつか含まれているが、その中からまず3局以上のTV局の番組表にまたがり、10回以上の頻度で登場した超大型ワードを抽出してみる。それは「王滝村地震」「かい人21面相」「臨教審」「ロサンゼルスオリンピック」「ワールドインポートフェア」の5ワードである。TV番組表という一つのフィルターを通す限り、この5ワードが現代社会を最も象徴しているといえよう。次に2局以上のTV局の番組表にまたがり頻度5～9回という大型ワードを取り上げると、それは「いじめ」「スクランブル」「生命科学」「地球号」「ハイテク時代」「パフォーマンス」の6ワードである。

Table 1 Key Words Picture I

1	青い鳥症候群	L' Oiseau Blue Syndrome
2	アフリカ飢餓	the starvation in Africa
3	石本茂	Shigeru Ishimoto
4	イッキ	<i>ikkī</i>
5	一世風靡	ISSEIFŪBI
6	インディラ・ガンジー	Indira Gandhi
7	植村直己	Naomi Uemura
8	うさぎ小屋	rabbit hatch
9	宇宙船地球号	Space-ship Earth
10	衛星通信	satellite communication
11	S D I	Strategic Defense Initiative
12	エストニア	Эстония
13	大型間接税	Large-scaled indirect tax
14	王滝村地震	the earthquake in Otaki-mura
15	かい人21面相	Kaijin 21 Menso
16	核シェルター	Nuclear Shelter
17	カタストロフィー	catastrophe
18	割賦販売法	Hire-Purchase Act
19	カナリア諸島	Canary Islanders
20	過敏性大腸症候群	Reizkolon, irritable colon syndrome
21	カレン族	Karen
22	拒食症	Anorexia Nervosa
23	キン肉マン	KINNIKUMAN
24	口は大きく耳は小さく	larger mouth, smaller ears
25	ゴルバチョフ	<i>Горбачев М.</i>
26	ザ～	the ~
27	ザ・ブレイン	the brain
28	児童手当	children allowance
29	スクランブル	scramble
30	専修学校	Sensyū-gakko
31	第五世代コンピュータ	The 5th Generation Computer
32	第三セクター	The 3rd Sector
33	体内時計	interior watch
34	タキタロウ	<i>Takitarou</i>
35	テクノストレス	technostress
36	中西悟堂	Godō Nakanishi
37	ナショナルトラスト	national trust
38	ナムナニ	Namunanifen
39	日本学	Japanology
40	ネフローゼ症候群	Nephrose Syndrome
41	パートタイム労働	part-time labor
42	ハーブ	herb
43	パフォーマンス	performance
44	ハレー彗星	Halley Comet
45	B型肝炎	B-type Hepatitis
46	ビデオアート	video art
47	フェラーロ	Ferraro G. A.
48	放送大学	Open University of the Air
49	ぼけ	Demenz, dementia
50	ボツリヌス菌	Botulinusbazillus
51	ポートビル	Portbill
52	香港	Hong Kong
53	マル優	Tax Exemption System for Saving
54	モラトリアム人間	a person in moratorium
55	臨時教育審議会	Ad Hoc Committee Investigating Education
56	ロサンゼルス・オリンピック	Los Angeles Olympic Games
57	ロリコン	'Young Girls' Complex
58	渡辺格	Itaru Watanabe
59	ワールドインポートフェア	World Import Fair in Nagoya '85
60	ワンルームマンション	one-room mansion



1局の番組表で、または3局までのTV局の番組表にまたがって頻度3～4回登場した中型ワードを取り上げる。それは「アフリカ飢餓」「エルニド」「大型間接税」「核シェルター」「核戦争」「学力」「教育の自由化」「スターウォーズ」「創政会」「第三セクター」「地球感覚」「地球っ子」「テクノストレス」「テクノピア」「登校拒否」「バイオテクノロジー」「パタゴニア」「ひょうきん」「ピラカンサ」「ポートビル」「マル優」の21ワードである。頻度2回ではあるが2局のTV番組表に出たワードも中型ワードとみなして記しておこう。それは「食虫植物」「ストレリチア」「チチカカ湖」「直下型地震」「トリコロール」「反核」「ポコト族」「ポロロッカ」「香港」「ボンサミット」「ロリコン」の11ワードである。

筆者は、これら超大型・大型・中型を含む合計250のワードの中から、従来同様に60ワードを現代社会のキーワードとして選出した。現代社会を一つのトータルティーとして獲得したいとの眼目から、それらはあらゆるジャンルから選ばれている。グローバルな視点から多様な情報を整理してみたいからである。Table1はキーワードをあいうえお順に配列したものである。誤訳を恐れずに各々のキーワードの訳語を横につけてみた。Table1の中には従来と同じように訂正・加除を試みて表現上の適切性を図ったワードもいくつか含まれている。Table1のキーワード・ピクチュアIを組み換え・再構成し、各ブロック毎に分類・整理したものがTable2である。従来の方法に準拠しつつ、ブロックI～VIIIまで「国際・軍事防衛問題」「時事問題・科学技術」「学芸常識」「現代生活・時代感覚」「現代医学」「政治・経済問題」「スポーツ・教育問題」「TVに登場した7人の人物」と8ブロックにグルーピングした。Table2は「ピクチュア」としてやや見やすくなっているものの、キーワード・ピクチュア作成のための分類整理は意外と困難である。それは一つの試案としての分類整理であり、他の手法・他の観点からのピクチュア構成が考えられてもよい。

本文ではキーワードについて理解を深めるための文章化を行う。しかし、紙面の都合上、60のキーワード説明文を全て掲載することはできない。TV番組表から抽出したキーワードはいずれも現代社会を彩るワードばかりである。新しく話題になったことや新造語も少なくない。一過性の流行語、今という時代の一端をチラリとのぞかせてくれるワード、現在進行中の事象を示すワードなども含まれている。従って、これらのワードの強い認識のための文章化は流動的・変動的となる局面を持つが、できるだけそのワードが生み出された時代背景やルーツを明らかにしつつ文章化の作業を進める。ブロックI～VIIIまでTable2の配列順序に従ってキーワードの定義・説明を行い、現代社会の総理解をより具体的に深めることにしたい。本稿(その8)ではTable2の前半(ブロックI～IV)部分の16ワードについて扱い、後半(ブロックV～VIII)部分については別稿(その9)で展開することとした。

## ブロックIのキーワード「国際・軍事防衛問題」の理解

### アフリカ飢餓

'80年代に入って、アフリカのサハラ砂漠以南一帯には大旱魃が襲っている。国連アフリカ委員会の報告によると、アフリカ大陸50余国中、サハラ砂漠以南の24カ国では日本の人口をはるかに上回る1億5,000万人が飢餓に苦しんでいる。数年間、一滴の雨も降らない砂漠化地帯では目を疑うほどの状態であり、食糧危機と水不足のため80万人が餓死したとされている。

アフリカの飢餓に対して、世界の国々は国際機関や団体などを通じて様々な救援の手をさしのべている。飢餓の直接の原因は旱魃という異常気象による天災が引き金となって起きてはいるが、爆発的な人口増加、うち続く内戦、農業政策の停滞、経済の不振、誤った開発政策と自

然破壊などが複合的に絡み合った人為的な人災の局面からも飢餓の構造は解きほぐされなければならない。タメ息が出るほどの難問である。'84年12月のNHK総合TVでは、番組「アフリカ飢餓地帯」を通じて、その悲惨な状況が映像紹介された。エチオピア北部の難民キャンプの中で息絶える農婦、極度の貧困のため栄養失調で水を飲む力さえない子供など人間存在ギリギリの状況を非情にも紹介する番組は、飽食の国・日本のあり方まで反省させられてしまうほどの痛ましい迫力であった。

#### 宇宙船地球号

バックミンスター・フラーが提示した汎地球主義思想のキーワードである。15年前に発表された同名の著書の中で、彼は様々な危機にみまわれているこのかけがえのない地球の21世紀に生き延びるための方法を多面的に模索した。またこの言葉は、経済学者K. E. ポールディング、B. ウォード、生態学者R. デュボスらによっても広く一般化した。地球に関する人間の新しいイメージないし地球観を象徴する言葉が宇宙船地球号である。この地球観の形成には、宇宙時代の開幕、交通・通信の発達による地球の縮小化、環境・公害問題への人々の関心の高まりが背景となっている。

地球は無限の空間ではなく有限であるから、宇宙船の中で宇宙飛行士たちが有限の資源を循環利用するように、地球においても新しい循環システムを開発することによって全ての人々が生き延びていかねばならない。45億人乗りの宇宙船として地球をとらえなおしてみるとという地球観は、現代に生きる人々の全ての領域において、発想のコペルニクスの転換を要請している。

#### 香港

'84年9月、NHK総合TVでは特集番組として「香港——歴史が駆け抜けた都市」が放映された。同月、中国とイギリスが香港返還に関する仮調印を行ったことに因んでの番組である。アヘン戦争以来、150年に及ぶイギリスの直轄植民地歴史に終止符を打つ香港全面返還に関する「中英共同宣言」に両国が北京で仮調印を行ったからである。仮調印によると、中国は'97年7月の返還後に高度な自治権を持つ特別行政区として香港を編入することになるが、50年間は現行の経済・社会体制（つまり資本主義体制）は維持すると両国の合意がなされている。香港ドルも貨幣としての使用が存続される。'97年の全面返還後50年間、香港は一つの国家、二つの体制の保持を模索することとなる。

現在530万人の人口（98%は中国人）をかかえる香港は、自由貿易の港として、また金融市場としての国際的地位を確保している。1842年の南京条約以来、香港はイギリス植民地としての位置の中で今日の国際都市へと変貌を遂げてきたが、中国への全面返還後は社会主義と資本主義という二つの体制を同時に共存させるという試みに立ち向かっていく。

#### SDI

SDIとは米国の戦略防衛構想であり、一般にスターウォーズ(Star Wars)計画といわれている。'83年3月の全米TV演説でレーガン大統領が打ち出した新戦略であり、21世紀に向けた米国の新たな核戦略体系の中心的存在として研究開発が進められている。SDIは地上から発射した超強力レーザーを宇宙空間に設けた巨大反射鏡に当て、その反射によってソ連核ミサイルの迎撃破壊をめざす戦略防衛構想である。米国はこの宇宙兵器の配備によって核ミサイルを無力化できれば、それは世界の核廃絶につながるとしている。一方のソ連はSDIが米ソ弾道弾迎撃ミサイル(ABM)制限条約に違反していると批判している。ソ連にしてみれば米国がSDIを放棄しない限り、米ソ軍縮交渉で戦略核兵器削減に応ずる考えはないのである。'85年2月、グレムイコ・ソ連外相(当時)は「SDIは人類に対する新たな脅威」とする厳しい対米批

難の演説を行った。

こうして国際的大問題となっているSDIであるが、3月になって米国はNATO(北大西洋条約機構)諸国、日本、オーストラリア、イスラエルの18カ国に対してSDIの研究参加を要請した。しかしNATO諸国ではSDIへの疑念が強く、特にフランスでは非軍事的な高度技術開発構想としてユーレカ計画を提唱している。6月になってSDIの要となるレーザー兵器実験がマウイ島で行われた。発射されたレーザービームがスペースシャトル「ディスカバリー」の反射鏡に反射して、その反射ビームを同島の実験施設に再びキャッチする実験である。レーザービームの兵器開発は急テンポで進行し、ソ連としてもSDIを突破する新型攻撃用ミサイルの開発という対抗措置を取らざるを得ない。核廃絶どころか核軍拡競争激化の契機となりつつあるSDIであるが、SF世界の夢物語「スターウォーズ」は決して現実化されることがあってはならない。

## ブロックIIのキーワード「時事問題・科学技術」の理解

### かい人21面相

未解決のまま'85年に持ち越されたグリコ・森永事件の犯人グループの脅迫状・挑戦状の差出人の名である。'84年4月の1通目の挑戦状「けいさつのあほどもえ」では用いられなかったが、犯人グループは2通目から「かい人21面相」と初めて自らを名乗った。江戸川乱歩が'36年1月号から「少年倶楽部」に連載した小説「怪人二十面相」をもじった名称である。

江崎グリコ社長の誘拐、丸大食品に5000万円、森永製菓と不二家製菓に1億円の要求の脅迫状、ハウス食品工業への警告状など、マスメディアを巧みに操作した情報化時代の姿なき悪質犯罪である。'85年に入って、犯人はバレンタインデーに青酸入りチョコレートを全国にばらまくと予告した。明治、森永、ロッテなど4社のチョコに「かい人21面相」のタイプ文をつけたものが東京と名古屋で13個発見され、うち8個から青酸ソーダが検出された。毒入チョコを前に厳戒体制化でのバレンタインデーであった。マスコミ情報やパブリシティの妖怪的な力を悪用して、犯人グループは企業の売り上げに壊滅的打撃を与えてきた。それは、マスメディアの時代にはパブリシティがいかにか企業の死活を握っているかを示している。犯人はマスメディア時代の市民を観衆として犯行を楽しみながら演じているかのようだ。劇場犯罪を演ずる「かい人21面相」とはたして何者か。はやくつかまれ「かい人21面相」。

### ポートビル

'84年7月19日の「海の記念日」に因んで、名古屋港中央ガーデンふ頭に総工費34億円をかけたポートビルがオープンした。ポートビルの外観は海に浮かぶ白い帆船のデザインイメージであり、帆を上げて船出を待つ姿の白い建物は、国際化・観光化の拠点として発展を旨とする名古屋港の新しいシンボルである。建物の中には港と市街地が一望できる海拔58mの展望室があり、3階には海と港を紹介した海洋博物館がある。博物館は3つのコーナーから成り、パソコン、映像、音響など最新のハイテクノロジーを採用して、「見る、聞く、触わる」の3要素を駆使した展示がなされている。「名古屋の姿」コーナーでは、名古屋港と市民生活のかかわり、海運、貿易、港湾について紹介されている。「海と船」のコーナーでは海洋や船舶に関する原理、「港をつくる」コーナーでは伊勢湾の自然を含めた名古屋港の生いたちについて紹介している。はるか太古の大昔に伊勢湾にすんでいた恐竜「パレオパラドキシア」の骨の標本は、そこを訪れる子供達にとって驚きの一つである。ポートビルのオープンとあわせて就航した金シャチの港内遊覧船も子供の人気を呼んでいる。また'85年夏からは、5億8,000万円で国から払い下げ

られた元南極観測船「ふじ」が南極博物館としてデビューした。ポートビル周辺の公園化計画の一環として設置されたのである。名古屋の海の玄関としてすっかり変貌した名古屋港は、新名所の一つとして人々に親しまれていくに違いない。

#### ワールドインポートフェア

財団法人・名古屋輸入博協会は「ひろげよう国際交易の輪」をテーマに、'85年の春(3~4月)25日間にわたって名古屋港金城ふ頭で輸入博をくり広げた。これはオリンピック誘致失敗のショックから立ち直った名古屋の政財界が総がかりでチャレンジした久々のビックイベントである。10歳以下の迷子1,900人を出したものの、25日間の総入場者188万人は輸入博での「一日世界旅行」を楽しんだことになる。円滑な経済関係、国際交流、輸入促進を目的とする日本初の輸入博は、名古屋の国際化と市民の国際的視野を広める絶好の機会(golden opportunity)でもあった。

期間中は名古屋と姉妹友好提携を結んでいるロサンゼルス、メキシコシティ、南京、シドニーを中心に世界43カ国の製品、文化、生活が国際展示場にあふれた。参加国には香港、チュニジアも含まれている。出展企業としては西ドイツの69社を最高に合計405社にのぼった。展示品の中心は酒類、食料品、繊維製品であるが、スリランカからの1億円の宝石「キャッツアイ」はユニークであった。輸入博は大ヒットし、名古屋人の「けちけち」根性にフィットしたのかとりわけ特産品特売場が人気の中心となった。そこにはアメリカ、オーストラリアの牛肉、フランス、カナダのしょうちゅうなど約2万種、300万点が並べられ、中でもドリアン、パイア、赤いバナナなどのトロピカルフルーツと英語の童話が人気を博した。

#### 第五世代コンピュータ

未来型の第五世代コンピュータは、知識ベースをもとにして自分自身で考えるコンピュータのことである。それは人間の専門家と同じように推論し、判断し、ひらめきさえ持つはずとされる。コンピュータは画期的な技術開発を節目として、真空管による第一世代、トランジスタによる第二世代、IC(集積回路)による第三世代と続き、現在は超LSIによる第四世代コンピュータと呼ばれている。これら現在までのコンピュータは計算やデータ処理には優れていても、文章・画像処理には時間がかかるし、一つのコマンドを受けたら、その処理が終了するまで次のコマンドが出せないなどの弱点も持っている。

'82年にコンピュータメーカー8社と電々公社(現在の日本電信電話株式会社)が設立・新発足させたICOT(新世代コンピュータ技術開発機構)では、ジョセフソン素子やガリウム素子を用いた超能力コンピュータを開発しようとしている。それは多数の知識を同時処理し、1秒間に1億~10億回の推論処理が可能なコンピュータである。推論とは三段論法に基づく演算処理のことであり、例えば(AならばB)、(BならばC)という知識を与えておけば、Aという情報をもとに、推論により独力でCという結論を生み出すという意味である。こうした推論を超高速で行うことのほかに、自然言語を意味解析(翻訳)する機能を持たせることも企図されている。従来のコンピュータを計算機とするならば、第五世代は推論機であり、その性能はより人間の脳に近づくことになる。プログラムの自動作成、音声・画像理解など多彩な活躍が期待される第五世代コンピュータは、近未来のうちに実用化の段階を迎えるかもしれない。

### ブロックⅢのキーワード「学芸常識」の理解

#### カレン族

ビルマとタイを分ける起伏の多い山地にすむカレン族は、自分達の耕地をよく手入れする定

住的な山岳民族である。焼畑農耕地には陸稲、谷あいの棚田には水稻を栽培している。換金作物は栽培せず、専ら自給自足の作物だけを栽培している。カレン族の村は、大部分がビルマとタイの国境沿いの山地にある。村は標高 450~750 m の山腹に多い。全人口 225 万人のうち 80% 近くはビルマにすむといわれる。タイのカレン族は少ないが、それでも山地人口の約半分を占め、タイ国内では中国人に続いて大きな非タイ族の民族集団である。

カレン族の社会では村が最大の社会組織単位である。ふつうの村は密集した 15~20 戸の家から成り、典型的家屋は竹製で屋根は草葺きである。家の中心には土で固めた大きな炉があり、ごごの上で寝る風習を持つ。カレン族では、未婚女性は足首までである長くて白い服を着ている。既婚女性は長いスカートの上に腰までの丈のブラウスを着ている。婚姻形態は厳しい一夫一婦制をとり、離婚はまれである。カレン族は強い民族意識を持ち、第 2 次大戦後にビルマからの独立を希望して大規模な反乱を起こした。'48 年のビルマ独立にあつては連邦内にとどまり、'54 年には自治権を持つカレン州が設立された。彼等は自分達だけで暮らすことを望んでいる。

### 日本学

一つの専門分野を深く掘り下げるといふ研究スタイルではなく、複数分野にクロスオーバーする学際的研究が脚光を浴びている。研究対象に対して様々な角度から迫ろうとする総合的研究は、従来の専門分野の枠組そのものの改変を余儀なくさせている。京都市立芸術大学長梅原猛氏らによる「日本学」研究も、そうした学際的な魅力ある研究の一つである。世界の中の日本というグローバルな視点から「日本文化」の特異性を多角的に追究しようとするものである。「国立日本文化研究所」創設に向けて彼等が例示する「日本学」のための 46 のテーマの中には次のような課題が含まれている。

1. 日本人の起源と形成過程
2. 日本人及び日本文化の地域性
3. 東アジア、太平洋地域における人類集団と文化の移動
4. 東西文化史観の構想
5. 深層日本文化論への展望
6. 日本文化の美的構想
7. 「平和」の比較文化史
8. 外国文化「摂取」の類型率
9. 大陸と半島と島国における文化意識の比較
10. 日本人の日本列島像の変遷
11. 日本人の伝統的心性
12. 外来思想の受容と創造
13. 日本人の自然観の比較文化論
14. 日本人の人間観の比較文化論
15. 日本における感性と美の思想
16. 日本における礼の思想
17. 文武の芸を通じての日本人の自己修練の型
18. 日本人の自我意識と自と他の関係
19. 日本における家の思想
20. 中央文化と地方文化
21. 日本人の個人、社会、国家、世界についての思想
22. 庶民の生活水準
23. 日本人の近代化を可能にした原因
24. 青少年問題の文化的背景
25. 家族のあり方に関する国際比較
26. 日本人の人間関係
27. 日本人の宗教性
28. リーダーシップ
29. 箱庭療法の国際比較
30. 日本企業における労使関係
31. ライフサイクル
32. 日本の近代化の比較社会論。

### カタストロフィー

カタストロフィーは破局とか大変動を意味する。例えば、大気圧のもとで水を加熱し、温度を上げていくと、100℃を越すところで液体の水がすべて気体の水蒸気に変化する。このように過程や状態が徐々に連続的に進行、変化していくうちに、ある時点で突発的、不連続的に大変動が起こることをカタストロフィーという。社会的には経済パニックや暴動、戦争、生物学ではある種の形態発生、物理学では超伝導や超流動など一般に協同現象とよばれるものがカタストロフィーの例である。

カタストロフィーに関する理論化の父はフランスの数学者トム (R. Thom, 1923~) である。彼は'60年代にその理論化に着手し、'72年の主著「構造安定と形態形成」で理論体系を完成させた。



せた。これは微積分を用いて図形の基本的な定性的性質を研究する「微分トポロジー」の分野に属する理論である。彼は様々な不連続の変動をトポロジー的に分析し、そこには7つの基本的タイプしかないことを証明した。そのモデルは今では生物学、社会学、心理学などの分野の多くの不連続現象を説明するために盛んに応用されている。7つのタイプのうち最も広く応用されるのは、 $F_2 = \frac{x^4}{4} + \frac{a}{2}x^2 + bx$  の式で表されるモデルであり、その幾何学的図形はくさび型をしているため、「くさびのカタストロフィー」として知られている。

#### ハレー彗星

長く尾を引く華麗な彗星のため、別名「ほうき星」とも呼ばれている。1705年、英国人ハレーはニュートンの万有引力の法則に従って当時記録のあった24個の彗星の軌道を計算し、その結果同一彗星が太陽を焦点とするだ円軌道を回っていると結論した。彼はこの彗星が1758年に再び現れることを予言したが、案の定その年の12月にドイツでパリッチがこの彗星を発見し、同期彗星の存在が確認された。その後、75～76年を同期として1835年、1910年と繰り返し出現した。ハレー彗星は'86年2月9日に最も太陽に接近し、華麗なる姿をまた我々地球人に見せようとしている。この彗星は地球、火星のように太陽をめぐる惑星と同じく太陽系に属する天体である。しかし地球とは大きく異なる天体であり、水、アンモニア、メタン、シアンなどが零下20度前後の宇宙空間で凍った氷のかたまりだと考えられている。その氷のかたまりを核(コア)といい、太陽に近づくとその熱でガス化し、太陽から出る素粒子の圧力で太陽の反対側に巨大な長い尾を引く。太陽に近づくとその熱にあぶられて成分が蒸発し、核のまわりにコマ(核のまわりの水素ガス)ができて、これが光り輝く。今世紀屈指のスペースショーとして天文ファンの熱い視線を集めているハレー彗星であるが、核の正体、水素ガス生成のしくみ、周辺のアストロノミカルな部分について謎の部分が多い。この謎の解明のために、ハレー彗星探査機としてソ連のベガ1号、ベガ2号、米国のアイズ、欧州宇宙機関(ESA)のジオット、日本のさきがけ、プラネットAが宇宙に飛び立った。人類の天体に馳せるロマンは尽きない。

### ブロックIVのキーワード「現代生活・時代感覚」の理解

#### ザ

十把一からげ、あるいは複数扱いでものごとや事物をとらえるのではなく、「～の場合」として一事例を特定して取り扱う風潮が強くなった。普遍化、概略化ないしは抽象化への方向を差し控え、個別のケースに具体的に迫っていく傾向と換言してもいい。このことは臨教審の唱える「個性」教育にも一脈通ずるものではあるが、TV番組表には複数のs、不定冠詞のa(an)でもない定冠詞theを冠するタイトル多く見られるようになった。その震源地はどうもアメリカ映画「ザ・将軍」「ザ・デー・アフター」あたりかららしい。

TV通であるならば、ザを冠するタイトルとして、「ザ・対決」「ザ・ドキュメント」「なるほどザ・ワールド」(以上東海TV)、「ザ・チャンス」「ザ・ベストテン」(以上CBC TV)、「ザ・テレビジョン」「ザ・フィッシング」(以上テレビ愛知)、「ザ・ハングマン」(名古屋TV)、「ザ・トップテン」(中京TV)、「ザ・ブレイン」(NHK総合TV)を想起できる人は少なくない。「ザ～」の表現は一つの風潮であり、記録すべき一つの今日の特徴であるから、その他の番組タイトルについてもここに記しておこう。「ザ・インタビュー」「ジ・オーディション」「ザ・監督」「ザ・センバツ熱球甲子園」「ザ・コレクション」「ザ・ショック」「ザ・シークレット」「ザ・桜島」「ザ・スターボウリング」「ザ・地球」「ザ・ドライバー」「ザ・日本の珍味・美味」「ザ春の祭典」「ザ・部活」「ザ・リーダー」。

## パフォーマンス

今日は言葉がファッションとなっている時代であるが、パフォーマンスもどうにでも使える便利な言葉として最近多用されている。'85年6月、社会党の新たな政治綱領となる「新宣言」草案においても副題の中に「愛と知とパフォーマンス」として使われたように、パフォーマンスには単に口先だけでなく肉体行動的なアクションを伴うものであるとの意味がこめられている。この語の流行の背景には、プログラム化された社会や生活に対して、もっと生き生きとした偶然性や一回性を求める欲求が隠されており、従来の様式や表現に対する懐疑精神が基調として流れている。

パフォーマンスはフランス古語の *Peurfourmen* に由来し、本来は演者、演出の意味である。絵画、演劇、音楽、ダンス等のジャンルでは、それは既成の手段を超えて受け手に直接的に訴えかける新しい表現行為である。台本のない見せ物にも似ており、一つのジャンルにおさまり切らない異端的なものに対する総称である。使い慣れた様式をとることを嫌い、異分野の表現形態と組んで行われる「ハプニング」とも呼ばれるべきものである。パフォーマンスは演出を含みこんだ自己表現である。歩行者の不特定多数を相手にして演ずる「一世風靡」の路上でのパフォーマンスぶり、西ドイツから来日して舞台の上でコヨーテの鳴き声を延々と吠え続けるヨゼフ・ボイスのパフォーマンスぶりはいまなお人々の記憶に新しい。

## ナショナルトラスト

国民の自主的な寄付によって歴史的建物や風景地などを守るナショナルトラスト運動の本家はイギリスである。'07年制定のナショナルトラスト法では、その目的を「美しい、または歴史的に重要な土地や建物を国民の利益のために永久保存すること」と定めている。この精神が第2次大戦後にとりわけ発展し、海岸線保存の「ネプチューン計画」となって美しい海岸線の保護が実現された。破壊されていく自然を国民の手で買い上げ、永久保護しようとするナショナルトラスト運動はわが国でも最近盛り上がっているが、その第1号は作家の大佛次郎さんらが'64年に結成した「鎌倉風致保存会」である。これは鶴岡八幡宮裏山の宅地造成計画を市民がストップさせた運動である。'74年にスタートした天神崎市民地主運動(和歌山県田辺市)は小さな岬の天神崎を買い取り、貴重な美しい海の自然を残そうとするものである。'77年には自然のままの姿を後世に残そうと北海道斜里町で知床100平方メートル運動が始まった。知床には今なお227種類の鳥が住んでいる。この運動は「ナショナルトラスト——小さな町の大きな実験」として'84年9月のNHK教育TV「みどりの地球」でも映像紹介された。

現在、わが国のナショナルトラスト運動は準備中のものも含めて20カ所を越え、環境庁もバックアップの態勢を固めている。運動のタイプには民間主導型、地方自治体型、個人中心型などがあり、'84年10月には田辺市で「ナショナルトラストを進める全国の会」が初めて開かれた。主な運動を記しておこう、「オホーツクの村」づくり運動(小清水町)、ウトナイ湖バードサンクチュアリー(苫小牧市)、小樽運河・石造倉庫保存運動(小樽市)、さいたま緑のトラスト協会(埼玉県)、妻籠町並み保存運動(長野県南木曾町)、辰見ダム建設反対トラスト運動(金沢市)、自然観察の森(奈良県天理市)、岡山県郷土文化財団などである。

## テクノストレス

「急激な環境の変化があると、それにうまく適応できず、種々の新しい疾病を招く」とは、環境生理学者レネ・デュボスが約20年前に発した警告の言葉であるが、テクノストレスは今日のニューメディア時代における新しい文明病として多くの職場に急増しつつある。その特徴は、近年のOA機器の導入に対して、それをうまく扱えず精神的に不安定に陥ることであり、またコ

ンピューターとの対話が面白くてたまらず、過剰にのめり込んだ揚句に人間性を喪失してしまうことである。コンピュータに主導権を握られ、コンピュータに強制されて単調な仕事を強いられている人間、コンピュータに身も心も売り渡したような状態になり、コンピュータの虜と化した人間——彼等はテクノストレスという心身症ないし軽い精神分裂病にかかりやすい。目の異常や疲れ、首・背中・肩のコリ、腰痛、不眠症、イライラ、吐き気、食欲不振を伴い風邪もひきやすくなる。

こうした精神的、肉体的な健康障害を防止し、健康な職場環境を保持するために、OA機器導入に伴う新たな労働衛生管理に関するガイドラインの設定が要請されている。日本産業衛生学会では職場環境の改善や1日の作業を4時間以内とするなど作業者の健康保護基準をまとめた。また、長時間の静止作業中での画面とキーと文書間の頻繁な眼球運動から招来するストレスを軽減するため、労働省ではその目安として、連続作業1時間につき10～15分の休憩を提唱している。至近距離での長時間にわたる機器操作を控え、室内の照明、機器の位置、机・椅子の高さなども再検討し、疲労度の最小化に努めなければならない。超人的能力を持つメディアとして重宝がられるOA機器ではあるが、ディスプレイから発生する有害電磁波の防御、画面のチラツキや反射光の除去といった機器そのもののマイナス面克服のための技術開発が今後一層必要となる。

## お わ り に

本稿では、ブロックI～IVまで現代社会にかかわる16個のキーワード(残り15個は割愛)について取り扱った。再度要約すると、ブロックI「国際・軍事防衛問題」では、「アフリカ飢餓の背景と難民の国際的救護」「45億人乗りの宇宙船としての我々の地球というグローバルな発想」「社会主義と資本主義を共存させようとする香港」「核軍拡競争の激化としてのスターウォーズ」について整理を試みた。ブロックII「時事問題・科学技術」では、「マスメディアを巧みに操作した情報化時代の姿なき悪質犯罪」「名古屋港新名所としてのポートビル」「名古屋で行われた日本初の輸入博」「判断し推論する未来型コンピュータ」について扱った。ブロックIII「学芸常識」では、「タイ・ビルマの山岳民族」「グローバルな観点からとらえた総合日本文化研究」「不連続的変動に関する数式モデル」「'86年2月に太陽に大接近して繰り広げられる同期彗星の天体ショー」について整理を行った。ブロックIV「現代生活・時代感覚」では、「ザを冠するTV番組タイトルの増加傾向と個別感覚強調の風潮」「既成の枠組を超えた表現行為としての演劇的知」「自然環境の保護のための民間運動」「コンピュータなどのOA機器導入に伴うストレスの増大」について取り扱った。

以上の4つのブロックにわたる様々な百科全書的知識を一まとめに凝縮して、現代社会の特徴を簡潔に表現することは困難である。しかし筆者としては次の4点について言及し、本稿でのまとめに代えることとしたい。まず第1に、現代人には地球的ないしは宇宙的スケールでの問題把握や発想が要求されているということである。日本という船ではなく地球という船に乗船しているとの観点から我々現代人はものを考えなければならない。米ソを中心とする核軍拡競争が宇宙を舞台として繰り広げられるようになった現代は、今にもこわれそうな地球上に世界の人々が必死に生きているのだとの思いを強くさせてくれる。核シェルターという防衛手段が単なる杞憂ではなく、現実に必要なのだという認識が我が日本においても強くなってきた。こうした宇宙的規模の核戦争勃発の不安の中で、ハレー彗星の接近は天体宇宙に馳せる人々のロマンとしてせめてものなぐさめである。

第2に、とどまることを知らないコンピュータ科学の発展は、ついに推理・推論の可能なコンピュータさえ生み出そうとしている点である。好むと好まざるとにかかわらず、これからの時代としての21世紀はコンピュータなくしては考えられない社会になろうとしている。一方でテクノストレスに示されるように、コンピュータをはじめとするハイテクノロジーに適應できない人々の現代的な病が社会問題化しつつある。コンピュータ科学と人間との調和ある関係ないしは人間のことを考えたコンピュータ科学の発展が望まれるといえよう。

第3に、我々人間がどれだけ科学技術を進歩させたとしても自然の摂理には勝てないこと、とりわけ火山列島の日本においてはいつ起こるとも知れない地震の前に人々はただひたすら受身的に防衛せざるを得ないという点である。従って科学技術が進歩するとしても自然の力の前には謙虚であるべきことを肝に銘じなければならない。時には荒れ狂う自然に対して人々はひたすらそれが過ぎ去るのを待たねばならない。一方、自然にはかけがえのない美しさがある。この自然の美しさをこれ以上人工的に破壊することがあってはならない。この点で、イギリスで始まったナショナルトラスト運動が日本でも随所で活発に行われるようになったことは好ましいことだといえる。

最後にパフォーマンス・ブームについて。これは、今日の人々の「知」への関心が観念上ないし机上の「ことば」の操作としてのみでなく、何らかの肉体的表現や行動を伴うべきであるとする現代の一つの傾向である。例えばそれは、徳のある人間が徳を「ことば」として説くのではなく道徳的行為として実際に実践するということと一脈通ずるなにものかである。パフォーマンスとは「ことば」が建前としてしか用いられなくなった現代に対する一つのリアクションでもあるといえるだろう。

## 参 考 文 献

- 1) 「毎日新聞」1984年7月1日～1985年6月30日号
- 2) 伊佐治大陸：名古屋女子大学紀要，31，165～202(1985)
- 3) 自由国民社版：現代用語の基礎知識 1985，自由国民社(1985)
- 4) 三留理男：飢餓——エチオピア緊急報告，光文社(1985)
- 5) ぼくらはカルチャー探偵団 知的人類のための現代用語集，角川文庫(1985)
- 6) ダイヤモンド社編：時事問題の基礎知識 1983，ダイヤモンド社(1983)
- 7) ダイヤモンド社編：時事問題の基礎知識 1985，ダイヤモンド社(1985)
- 8) 岡田晃：香港——過去・未来，岩波書店(1985)
- 9) 現代用語研究会：現代用語，日本実業出版社(1985)
- 10) 豊田利幸：SDIとは何か——宇宙にひろがる核戦略，岩波書店(1985)
- 11) 高橋憲行：時代のキーワード，アーバンブックス(1985)
- 12) 日本実業出版社編：カタカナ用語と略語 3300 辞典，日本実業出版社(1982)
- 13) 下中邦彦：世界大百科年鑑 1985，平凡社(1985)
- 14) 下中邦彦：世界大百科事典 34，平凡社(1981)
- 15) 茂木晃：電気電子用語事典，オーム社(1985)
- 16) 日本未来学会編：第五世代コンピュータと未来，講談社(1985)
- 17) 世界民族大百科第2巻，日本メール・オーダー
- 18) 世界民族大百科第7巻，日本メール・オーダー
- 19) 中村雄二郎：術語集——気になることば，岩波書店(1984)